

こどもの森の利用案内

- ★ こどもの森は、時間中いつ来ていつ帰っても OK。お金はかかりません。
- ★ こどもの森にある道具は自由に使えます。使い終わったら片づけてね。
- ★ おやつやお弁当を食べることもできます。ごみは持って帰ってね。
- ★ 汚れてもいい服や靴で来てね。着替えもあるといいよ。
- ★ なくなったら困る大事なものは、おうちにおいてくるか身に付けて遊んでね。



大人のみなさんへ

こどもの森から保護者のみなさんへのお便りです



春なので、自己紹介します。
こどもの森は、
ちょっと「変わった」公園です。

こどもの森は、今年で4年目を迎える「練馬区立」の公園です。他の区立公園とちょっと（いや、だいぶ？）違うこと、ご存知ですか。

練馬のみどりでたっぷり遊べます。

練馬区といえば、23区で最もみどりが多いことで有名です。練馬で生まれ育つ子どもたちに、もっともっとみどりに触れて、みどりの中で過ごした思い出をたくさん作ってほしい、そんな想いから生まれました。もともとキウイやクリ、ウメの生産緑地だった場所なので、木々をそのまま生かして整備されています。

梅雨の頃には梅の実があちこちに転がり、秋には栗やキウイの収穫もできます。大きな木に登って遊んだり、冬には剪定したキウイのつるで、クリスマスの飾りを作ったりも。

プレーリーダーがみんなを待っています。

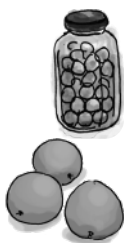
そして特徴的なのが、プレーリーダー（あそび場に立つ専門的な研修を受けたスタッフ）がいること。

一般的な公園は、大きなけがが起こらないように、どうしても禁止事項が多くなってしまいます。また、子どもが元気に遊んでいると、トラブルが起きてしまうことも。これもまた、様々な禁止事項に繋がってってしまいます。

しかし、子どもが自由に遊び、時には困りごとに直面しながらも、様々な人と関わって育っていくのは、とても大切なことです。こどもの森では、プレーリーダーが常駐することで、禁止事項をできるだけ作らない運営を可能にしています。

プレーリーダーは、子どもたちが安心して遊べるように環境を整えたり、「やってみよう」という気持ちを大切に創造的に遊べるきっかけを作ったり、人と人がつながるように橋渡しをするのが仕事です。時に一緒に遊んだり、話し相手にもなりながら、全ての子どもがいきいきと遊び育つことが出来るように関わっています。

土や木、花などの自然に、鑑賞するだけでなくじかに触れてじっくりと遊ぶ。知らない子といつの間にか一緒に遊んでいる。大人も居合わせた人と会話を楽しむ——こうした経験は、普段公園に行っても意外となかったりしますよね。こどもの森でなら、できるんです。遊びに来てみませんか。



プロフェッショナル ～泥団子の流儀～

暖かくなり、土や水の冷たさが気にならなくなると、流行り始めるのが「光る泥団子」。泥を丸めたものに、さらさらの砂をまぶしながら、布やペットボトルキャップで磨き上げる。



実はこの僕、人生で一度も光る泥団子を作れたことがなく…今日こそは！とチャレンジしていたある日、目を輝かせて近づいてきた中学1年生。「ワシもご一緒しよう」。彼は、どうやら光る泥団子に並々ならぬ思いがあるようだった。

「これくらいの柔らかさの土を使うとよいぞ」

「水が多すぎると、まとまりが悪くなるからな」

「磨くのに布やペットボトルキャップという話も聞かぬが、ワシは『手』じゃな」

彼は熱っぽい口調で、自らの流儀を語っていく。聞くと、幼稚園の時から光る泥団子を作り続けているそう。長年の経験に裏打ちされたテクニックで、泥を作り、丸め、丁寧に丁寧に磨き上げていく。

「もっと土の鼓動を感じるのじゃ！集中せい！」

「はい！先生！」

熱血指導を受けること数時間、ただの土だったそれは、彼と僕の手の中で見事な「宝石」に姿を変えた。

長い時間をかけて、何度も試行錯誤を繰り返して、自分のこだわりを詰め込んだ、1つの遊び。彼の場合は、それが「光る泥団子づくり」なのだろう。額に汗を流しながら、真剣な眼差しで作品を見つめるその横顔は、さながら「プロフェッショナル」といって差し支えの無いものだった。

春の訪れとともに現れる、様々なプロフェッショナル達。「雑草研究家」「虫とり名人」「カエルハンター」、中には「水かけ職人」「落とし穴掘り師」なんていうのも…。こどもの森で、彼らの流儀をのぞいてみませんか？

